



インフルエンザとノロウイルスのシーズン到来に注意を！！

～どのような病気かを知り、感染予防対策をして元気に過ごしましょう～

1、インフルエンザについて

- {潜伏期} 1日～5日
- {感染経路} ・飛沫感染（くしゃみや咳）
・飛沫核感染（空気中のウイルス）
- {症状} 悪寒、頭痛、関節痛、倦怠感等の全身症状、38℃以上の高熱、咳、呼吸困難、腹痛、下痢等の胃腸症状など
- {種類} A型、B型、C型、新型
- {予防} ・インフルエンザワクチンの接種
・栄養、休養、規則正しい生活
・手洗いとうがい、マスクの着用
・人込みを避ける
・適度な温度と湿度を保つ
- {検査} インフルエンザウイルス抗体検査
- {治療} ・寒気のある時は保湿、体熱時はアイスノン等で身体を冷やす
・水分補給し、体力消耗を防ぐ
・薬物療法は、抗インフルエンザウイルス薬と対症療法の薬剤（解熱鎮痛剤や、鼻汁、咳等の薬剤を医師の指示に従って使用

2、ノロウイルスについて

- {潜伏期} 24～28時間
- {感染経路} 1、経口感染（口から体内に入り感染）
・感染者の便や吐物からの経口感染
・調理者が感染していて、その者が調理した食品を食べた場合の経口感染（中毒のタイプで一度に多くの感染がでる）
・ウイルスに汚染された貝類（カキ、アサリ等）を生あるいは十分に加熱せず食べた場合
- 2、空気感染
乾燥したウイルスが空気中を漂い、これが口に入って感染する
- {症状} 吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、微熱等あり
1～2日位で治療。老人や乳幼児では長引く事あり。脱水、誤嚥に注意
- {特性} ・下痢だけでなく嘔吐が多い（適切に処理、消毒しないとウイルスが床等に残り、乾燥し空気中に舞い上がり感染が広がる）
・消毒に対する抵抗性が強い（アルコール、酸、乾燥、高温に強い。水中でも長時間生きる厄介なウイルス）
・一度かかっても何度も感染する
- {治療} 有効なウイルス剤はなく、対症療法。
脱水に対し、水分補給、補液
- {診断} ノロウイルスキッド、15分程で判定
- {予防} ・手洗い（タオルの共用は避ける）
・便や吐物の処理時、ビニール手袋使用
・消毒には、塩素系消毒薬を希釈し使用



最後に、ご家族の皆様へ

風邪症状やノロウイルスの症状が見られる方に対し、面会制限をさせていただきます。又、患者様に症状がある場合も同様です。11月よりインフルエンザワクチンの接種も始まります。ご協力の程よろしく申し上げます。

お知らせ

当院では、10月10日（土）に第22回となる文化祭を開きました。たくさんの方々にご参加をいただき、盛況に終わることができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

尚、模擬店による売り上げ、136,750円は、平成27年台風第18号等大雨災害義援金として、日本赤十字社へ全額を寄付させていただきました。売り上げにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



10年ぶりの「高齢者薬物療法ガイドライン」全面改訂

薬剤師 権藤 節子

前回2005年に初めて作成されてから、今回10年振りに改訂されました。高齢者の薬物有害事象が増加する要因として、薬物動態の加齢変化に基づく薬物感受性の増大と、服用薬剤数の増加が挙げられています。

本ガイドラインの特徴として 中止を考慮すべき薬物 もしくは使用法のリストである「ストップ」と、強く推奨される薬物、もしくは使用法のリストである「スタート」の2つの薬物リストが作成されている点です。

「ストップ」では、特に薬物有害事象のハイリスク群である75歳以上の高齢者、および75歳未満でもフレイルな高齢者（虚弱な方）が対象となります。

急性期～亜急性期は専門治療が必要な場合が多いので、慢性期、特に1ヶ月以上の長期薬物投与されている方が対象です。

「スタート」の目的は、高齢者に対する過小医療の回避です。

本リストは医師が処方とその見直しに利用することを念頭に作成されていますが今回は、高齢者医療にかかわる他の職種（薬剤師・看護婦・ケアマネジャー・介護職など）が服薬管理や、薬物有害事象のチェックに際してリストを参照することは、医師に相談するうえで有用な情報を提供できるとされています。在宅医療・介護施設の医療、薬剤師の役割、の項目も新設されました。患者様と直接かかわる職種の方からの 医師への情報提供が期待されています。

「ストップ」「スタート」リストを、必要時参照されてみてください。



作業療法だより



今回は高塚参拝の様子を報告します。毎年、この気候の良い秋にバスハイクとして、お年寄りに人気のスポット高塚地蔵尊にお参りに行っています。出発前に雨が降り出し、中止を検討した病棟もありましたが、到着すると天候も回復し普段どおりに参拝することが出来ました。これも地蔵尊のご利益でしょうか。

車窓からはたわわに実った黄金色の稲穂、その周りにはびっしりと並んだ赤い彼岸花。この景色を見て、皆さん秋を感じられた様子で「そろそろ稲を刈らないかん」と話される方もおられました。参拝ではお賽銭をあげ、熱心に手を合わせてお参りして回られていました。中には高塚の大規模な改修を知らず、「変わってしまったね～。良うなっとなる。帰って息子に話さな！」と驚かされている方もおられました。お抱え地蔵では多くの方が抱えるのに苦戦されていましたが、良いお参りが出来た一日ではなかったでしょうか。

